

育種学用語集

日本育種学会編



1980

一九八〇年十一月三日

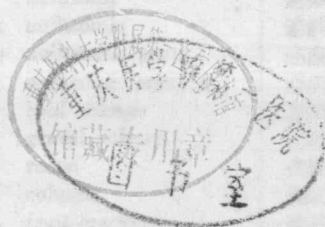


育種学用語集

日本育種学会編



1980



東京

株式会社

養賢堂発行

序

「育種学用語集」ができてからの経過は、用語編集委員会の委員長、酒井寛一氏によって、詳しく述べられているとおりである。

学術用語をできるだけ判り易く整理統合し、それに国際性の高い外国語訳を付して規準用語集とする気運が、広く学界を通じて起ったのは、当用漢字や新仮名づかいの動きと前後する昭和22年以後のことであった。当時のこの企ての中心は学術研究会議（昭和22年より）とそれに続く文部省学術奨励委員会（昭和24年より）であり、その要請をうけて幾つかの学会は用語選定案の作成にとりかかった。

わが育種学会は昭和26年の創立であるから、このような空気のなかで育ったことになる。ここでも作成の重要性を認め、会員の熱心な協力のもとに、育種用語の収集と整理を行ない、それを学術会議の育種学連絡委員会選定という形で、昭和34年の育種学雑誌、第9巻第2・3合併号に発表した。この用語集は和英の部だけであり、約1,000語が収められている。

その時から早くも20年の歳月が流れた。その間に育種学は目覚しく発達し、分野も多岐にわたり、他の科学との関連は一層深まり、育種の対象生物も更に拡大した。その結果、専門用語はもちろん関連用語もいちぢるしくその数を増し、そのため時として用語の混乱さえもみられるようになった。

このようななかで育種学会は昭和50年に創立25周年を迎えたわけであるが、これを記念し、将来に向けて広く役立つ事業の一つとして、想を新たに、時代に即応した用語集を再編することとした。

編集委員会は、できるだけ多くの人々の意見を聞き、審議を尽し、慎重を期したことはもちろんである。しかしこの種のも

(ii) 序

のに完結はありえないし、学門の進歩や社会の移りかわりとともに追加や訂正を必要とする。それらについては、学会は常に意を注ぐ所存であるが、利用者各位にも御援助と御叱正をお願いする次第である。

終りに、御多忙中を貴重な時間をさいて御尽力下さった酒井委員長をはじめとする編集委員会の各位に、心からの感謝を捧げたい。また検討結果の整理校合にあたられ、その作業の推進力となって献身された津田周彌氏に、衷心よりお礼申し上げる。

昭和54年11月23日勤労感謝の日

日本育種学会

会長 高橋萬右衛門

育種学用語集：正誤表

ページ	行	誤	正
X	上から	2 partigl linkage	partial linkage
23	左側上から	10 トサカ果	とさか果
60	右側下から	19 異形細胞	異型細胞
103	右側上から	11 微動遺伝子	微働遺伝子
120	左側下から	3 secondary cente	secondary center
155	左側上から	5 dark germinator	dark germinater
155	右側下から	4 異形細胞	異型細胞
155	右側下から	1 異状細胞	異常細胞
156	左側上から	18 異形細胞	異型細胞
176	右側上から	4 キ	キ, ギ
182	右側上から	7 空洞病	空胴病
184	右側上から	23 dark fire cured	dark fire-cured
192	右側上から	15 荒無地植物	荒蕪地植物
216	右側下から	2 ス	シ, ズ
257	左側上から	16 supr canker	spur canker
257	左側上から	18 supr blight	spur blight
262	右側下から	1 微動遺伝子	微働遺伝子

編集委員会からの報告

ずい分長い時間がたったものだと考えながら、私は昭和50年4月1日に東京大学農学部で開かれた育種学会幹事を思い起こす。というのは、この幹事で、学会創立25周年記念事業として、育種用語集を出そうという計画がきまったからである。席上で早速、世話人の選挙が行なわれ、その結果、高橋萬右衛門、常脇恒一郎、角田重三郎、村上寛一（後に伊藤博）の4氏と酒井寛一の計5人が選ばれたのである。その日からすでに5年に近い歳月が流れたが、そのあいだ、上記5名の委員達も、たがいに遠く離れて住んでいるために、あまり相集う機会もなく、僅かに年2回、春と秋の育種学大会のときに会合をもつ位しかできなかった。

そういう状態の下におかれながらも、翌昭和51年4月の幹事会には、約5,000語を集めてガリ版刷りの第一素案が配られた。その第一素案は、同時に国内の試験研究機関や大学研究室その他に送られ、広く一般の意見や批判、それに追加又は訂正すべき用語の通報を受けた。その結果、昭和52年4月には新たな1,000語内外の第二素案が加えられ、そして同年9月にはさらに約1,500語を追補した第三素案が、育種学会幹事の間に配られた。

かくして、遅々としながらも原案作製は進んでいったが、昭和53年に入っていよいよ実際の出版作業にうつることになり、春の幹事で、刊行準備委員会を作って、最終的作業を進めることになった。この準備作業の世話人には、北海道大学の津田周彌教授が推され、実際の仕事は札幌にうつされることになった。幸にして北海道大学には、育種学会長もおり、各分野の専門家もそろい、その上、編集委員の1人の酒井も仕事の関係で渡道の機会が一再ならずあったので、都合のよいことが多かつ

(iv) 編集委員会からの報告

た。かくて昭和53、54年と作業委員会は数回となく開かれ、作業委員の熱心な討論と協力の下に作業は着実に前進していった。ただこういう仕事はいつでも、誰か特定の人に特別の努力を頼まないと進まないのであるが、この点では津田教授の献身と、それを助けて筆と足の労を惜しまなかった島本義也助教授の努力に、いま私は編集委員を代表して、心からの感謝を捧げねばならない。

一方、この頃になると、東京大学中島哲夫教授の知恵に依らねばならぬことがふえてきた。そして屢々同教授に、予想外の援助を求める機会が多くなり、特に出版元の養賢堂への交渉など、煩雑な問題に立ち入ってもらった。

このようにしてここに、育種学用語集を日本育種学会として世に送ることになったが、それに先立って、この用語集の計画で特に目指した3つのことを述べておきたい。その1つは、育種の将来の分野拡大にそなえて、できるだけ各方面、特に生態学の用語を取り入れようとしたこと、第2には、いままでは育種といえば、とかく農作物と家畜家禽に集中する傾向が多かったが、この用語集では水産、森林、草地の育種関連用語をなるべくたくさん入れようとしたことである。そして第3には、学生諸君がこの用語集を使ってくれることを考えて、学生諸君にも充分に役立つようにしたいと考えたことであった。

編集委員としての悩みもいくつかあった。その1つは外国語の和訳の問題である。従来、和訳がなくて原語の片カナ読みのまま行なわれてきた用語がいくつかある。それをどうするかということであった。これには色々の議論があり、片カナ読みのままにすべきだという人も少なからずあったが、しかし初学の人にとってはやはり、読んでその内容が少しでもつかめるような訳をつけられればその方がよいという考え方をとった。もう1つは植物名や動物名をどうするかということである。植物で仕事をしている人にとっては動物名が簡単にわかれば便利だし、動物を扱っている人にとっては植物名がそうだろうと思われる

ので、動植物名をできるだけ多く収容しようと考えたが、実際に手をつけるとどの程度におさめるかが難しくて、結局は中途半端なものに終わってしまった。

以上の他にいろいろな問題がでてきたが、そのうちで特に読者の方々に了解を求めねばならぬことを次に列記する。

1. 用語には専門別に慣習的な使い方があつた。たとえば selection を一般的には選択と訳すが、進化の中では淘汰、育種の中では選抜と訳すことが少なくない。どれを使ってもそれぞれぴったりの場面がありそうなので、この用語集では特に1つにまとめるようなことはしなかつた。

2. 用語を単純化することは余分な混乱を招かないので望ましいことではあるが、時には少しずつの意味の違いが有用なことがある。たとえば mating, crossing, hybridization はいずれも交配とか交雑とか訳されてきたが、mating には、雄と雌が夫婦となる意味の配偶、crossing には雄と雌が性的に結びつく交配、そして hybridization には、雄と雌の結びつきによって雑種ができるという意味の交雑を使い分けるというようにした方が、魚類や野生動物の場合には便利なときがあると考へた。

3. 当用に入らない漢字の中にも、大変有用なものがある。たとえば grass は、イネ科植物とかイネ科牧草とか言わずに、禾草(禾本や禾穀の禾である)と言つた方が簡単で明瞭である。本用語集では意識的に禾を残した。

4. 専門分野別に用語の精粗が不釣合にならぬよう念じたが、この調整はほとんど手をつけることができなかった。

5. この用語集は用語の一応の使い方を列記したものである。これによって育種用語を統一しようとか規制しようとは毛頭思っていない。よりよい用語と思えるものがあつたら、他人に理解し易い限りで自由に使ってほしいし、それこそ学問の一般化や発達のために役立つと思う。

この用語集をつくるに当つて一番気がかりであつたし、今も

(vi) 編集委員会からの報告

なお不安なのは、いろいろなところにあるだろうミスのことである。その中でも心配なのは、原語のつづりに誤りがないか、英語になっていない和製英語がないか、そして専門の違うために気付かなかった誤訳がないかということである。もし読者の中で、そういう誤りなどにお気づきの人があったら育種学会用語集編集委員会へお知らせ頂けたら幸いである。

この編集委員会からの報告は、委員同士の話しあいで行われてきた経過と結末の概要を記したものであるが、ただこの報告の中の記載のすべてが5名の委員の話しあいから生れたものともいいきれない。この報告を、用語集に一番多くかかわってきた酒井の記名報告として、各委員にかかる迷惑を一切記名者の責任に帰することにしたい。

なおこの用語集にはいうまでもなく、各大学、試験研究機関の研究技術者、更に時には育種学会員でない人達、特に水産関係の学者に少なからぬ援助を仰いだ。本来ここにそれらの人達すべての尊名を記して、本書完成までへの寄与を明らかにすべきであるが、省略させて頂くより仕方がなかった。いろいろな形で御援助下さった方々にここで編集委員会を代表して心の底からお礼を申し上げる。

1979年師走

酒 井 寛 一

参 考 文 献

1. 育種学用語 (昭和34年) 育雑 9: 194-204
2. 遺伝学辞典 (昭和52年) 田中信徳監修 共立出版株式会社
3. 園芸学用語集 (昭和47年) 園芸学会 養賢堂
4. 学術用語集 遺伝学編 (昭和49年) 日本学術振興会, 丸善株式会社
5. 学術用語集 植物学編 (昭和31年) 大日本図書株式会社
6. 作物学用語集 (昭和52年) 日本作物学会編 養賢堂
7. 実用育種採種用語解説 (昭和45年) 有倉保雄, 農事新報社
8. 最新植物用語辞典 (昭和40年) 広川書店
9. 生態学辞典 (昭和49年) 沼田眞編 築地書館
10. 生物学辞典 第2版 (昭和52年) 岩波書店
11. 草地学用語集 (昭和47年) 日本草地学会
12. 畜産学用語集 (昭和39年) 日本畜産学会 養賢堂
13. 日本有用植物病名目録 第1巻 (昭和50年) 第2, 3巻 (昭和40年) 日本植物病理学会
14. 林木育種用語辞典 (昭和43年) 林木育種協会
15. A Dictionary of Agricultural Terminology. (1962), Winburne, J.N., Michigan State University Press.
16. Index of Plant Diseases in the United States. (1960), U.S.D.A., Agriculture Handbook 165.
17. Glossary of Genetics and Cytogenetics. Fourth completely revised edition (1976), Rieger, R., A. Michaelis and M.M. Green, Springer-Verlag, Berlin, Heidelberg, New York.
18. Multilingual Compendium of Plant Diseases (1976), Miller, P.R. and H.L. Pollard, The American Phytopathological Soc..
19. Shogakukan Randomhouse English-Japanese Dictionary (1973), 小学館

* 論文から直接にとったものも少なくないし, また, まだ定本になっていない用語集や専門書についている用語集からとったものも多いが, まとまって参照させてもらった文献は上記のようなものであった。

凡 例

英和の部

見出し語

1. 配列はアルファベット順とし、英語化していない用語（例えばラテン語、ドイツ語由来の用語）と遺伝子記号はイタリック体で示した。綴りは米語綴りを旨とし、また1つの単語が2行にわたって印刷されるときは、米国式分綴法に従うのを原則とした(参考文献 19 による)。
2. 用語が複数の単語から構成される場合は原則として最初の単語の綴りを配列の基準とした。またハイフンで結ばれている語の場合は、2つの単語から構成されるものとして取扱うように努めた。ただし *in vitro* などのような語は一語と見なした。

例 head

head bag

head-selection method

head type

headed plant-to-seed

heading

3. 同義語がある場合は等号 (=) で結び、後出の語の綴りが著しく異なるときには、それを改めて見出し語とした。

例

acclimation=

acclimatization

} 後者は見出し語としては用
いない。

analysis of variance=

anova

} 後者も見出し語として用い
た。

4. 2つ以上の単語からなる同義語で、その一部の単語のみが異なるときには、それを一重括弧で示した。

例 heading date	heading date=heading stage=
(stage, time)	heading time

いずれも訳は出穂期。

5. 見出し語の複数形が不規則変化する場合、必要と考えられたものについては二重括弧内に pl. の記号を付してこれを示した。

例 conidium (pl. conidia)
ovum (pl. ova)

6. 省略語は特殊な場合を除き、スモールキャピタルで印刷してある。

F₁, P, IRI など,

7. 見出し語の総数は約 8300 語である。
8. 作物の病名は日本有用植物病名目録から採用したが、その英名が Multilingual Compendium of Plant Disease と異なるときは後者を採用した。

和 訳

1. 漢字制限にはこだわらず、また「送りかなのつけ方」の原則は尊重するよう心掛けたが動詞から転成した名詞の類には一般に送りかなを付していない。とくに読みにくいと考えられた字には一重括弧内に平がなで読み方を示した。

例 糲摺り

糲摺機

戻交雑

暈枯 (かさがれ) 病

細蚕 (はそこ)

2. 2つ以上の訳があるとき

- イ. それらが同義で、いずれを用いても差支えのないときは、読点で区切って並列した。一部文字の異なるときは一重括弧でこれを示したこともある。

linkage 連鎖, 連関

partigl linkage 部分連鎖

(連関)

これらの場合, 最初に位置する訳をより繁用されるものとするように配慮したが, 厳密な検討を加えたわけではない。

- ロ. 2つ以上の訳の意味内容や使用分野が相互に異なるときは, 訳の冒頭に番号を付し, 必要に応じて注を二重括弧内に示した。

- 例 rachillia
1. 底刺《オオムギ》
 2. 小枝梗《イネ》
 3. 小穂軸《イネ科》

和 英 の 部

見出し語

1. 表音式かなづかいに従い, 五十音順に配列した。その際, 濁音, 半濁音は清音とみなし, また長音は無視した。
2. 歴史的かなづかいである「ゐ」「ぢ」「づ」などは, それぞれ「い」「じ」「ず」として取扱った。

例

配列順	歴史的かなづかい	配列のための読み方
異型葉	いけいえふ	イケイヨウ
異ゲノム間	いゲノムかん	イケノムカン
対合	ついがふ	ツイコウ
維持系統	ゐちけいとう	イシケイトウ

3. 一方配列が必ずしも正確でない場合もある。例えば, 雄牛, 雄鶏などは見出しの便利さから雄(オス)の項に続けてある。また晩生などはオクテとしか読んでいない。

訳 語

1. 英和の部に掲載されているものがほとんどである。
 2. 2つ以上の訳のある場合
 - a. それらが同義であるときは、カンマで区切って並列した。また2語以上からなり、その一部のみが異なっているときは、それを一重括弧で示した場合もある。
 - b. 意味内容や使用分野が異っているときは、見出し語を重複させ、それぞれ注を付して示した。
- 例 茎頂培養 shoot apex (stem tip) culture
 欠失 deficiency, deletion
 系統《動》 blood line, race, pedigree, stock, strain
 系統《植》 line, strain, pedigree, stock
 系統《病》 strain, race
 系統《微》 stock, race, strain

符 号

= 同義語

() 一部言い換え可能なことを示す。

[] 省略してもよいことを示す。

《 》 注記

1. bacterial wilt 青枯病《ジャガイモ》
2. black 青〔毛〕《馬》
3. water bloom 青粉《養魚池の藻類》
4. 相(合)性《畜》 nicking
5. 秋播き fall (autumn) sowing
6. 秋播性 winter [growth] habit

1. ジャガイモの bacterial wilt の和訳は青枯病である。

2. 馬の black の和訳は青もしくは青毛である。
3. water bloom の和訳は養魚池の藻類である青粉である。
4. 畜産関係で用いる相性（または合性）の英訳が nicking である。
5. 秋播きの英訳は fall sowing でも autumn sowing でもよい。
6. 秋播性の英訳は winter habit, winter growth habit のどちらでもよい。

略 語

1. 二重括弧内に注記として示した略語とその意味は次の通りである。

イ. 用語の使用分野を示すもの。

遺—遺伝〔学〕 育—育種〔学〕 園—園芸〔学〕
花—花卉〔学〕 果—果樹〔学〕 禽—家禽〔学〕
細—細胞〔学〕 昆—昆虫〔学〕 栽—栽培〔学〕
作—作物〔学〕 蚕—養蚕〔学〕 植—植物〔学〕
水—水産〔学〕 染—染色体〔学〕 草—草地〔学〕・
飼料作物〔学〕 態—生態〔学〕 畜—畜産〔学〕
統—統計〔学〕, 実験計画法 動—動物〔学〕
皮—皮革〔学〕 微—微生物〔学〕 病—植物病理〔学〕
分—分類〔学〕 林—林学及び森林育種

特に記載がない限り基礎学はその応用学をも包含することにする。例えば植は植物学のみでなく、園芸学、作物学、ときには微生物学、植物病理学等をも含む。

ロ. その他

pl. 複数型 cf. 反義語もしくは対照すべき語を示す。

≡ 意味がほぼ等しい。

英和の部

A

A-chromosome	エ-染色体
ABA	アブサイシン 酸
abaca	マニラアサ
abalone	アワビ
abaxial	背軸の, 裏側 の
abiotic factor	非生物的要因
abortion	1. 流産(畜) 2. 不稔(植)
abortive grain	しいな
abortive ovule	不完全胚珠
abortive pollen	不完全花粉
abscissa	横 軸
abscission (absciss) layer	離 層
absolute lethal	完全致死の
absorbed dose	吸収[線]量
acarasis	ダニ病
acaricide	殺ダニ剤
acaulous	無茎の
accelerated generation advancement	世代促進
accessory bud	副 芽
accessory calyx	外 萼
accessory chromosome	副染色体
accessory pigment	補助色素
accidental species	偶存種
acclimation = acclimatization	馴化, 馴化
accommodation	順 応, 風土順化
accompanied grass	随伴(同伴)草
accompanied species	随伴[草]種

accumulated temperature	積算温度
acentric	動原体のない
acentric fragment	無動原体断片
acentric inversion	無動原体逆位
achene	瘦 果
achlamydeous flower	無被花
achromatic	非染色性の
achromatin	不染色質
acicular tree	針葉樹
aciculate	針形の
acid plant	酸性植物
acid soil	酸性土壌
acid tolerance	耐酸性
acid value	酸価, 酸度
acidicolous	酸性土に生育 の
acidophil[e]	好酸性
acidophobous	嫌酸性の
acidosis	酸血症
acorn	どんぐり
acquired character	獲得形質
acrocentric	末端動原体の
acrogamy	頂点受精
acropetal	求頂性[の]
acrosome	先 体
acrosipre length	幼芽長 (イネ科)
ACTH	副腎皮質刺激 ホルモン
active ingredient	有効成分
active site	活性部位 (酵素)
active tillering stage	分蘖盛期
acute irradiation	急照射
acyanogenesis	シアン不生成

ad libitum feeding	自由給飼, 無制限給飼	advanced registry of merit	名誉高等登録
adaptability	適応性	adventitious bud	不定芽
adaptability for heavy manuring	耐肥性	adventitious embryo	不定胚
adaptation	適応	adventitious embryony	不定胚生殖
adaptation reaction	適応反応	adventitious root	不定根
adaptive enzyme	適応酵素	adventive	1. 外来植物 2. 外来動物
adaptive peak	適応峰	adverse selection	逆選抜
adaptive radiation	適応放散	aeration	通氣
adaptive value	適応値	aerenchyma	通氣組織
adaxial	向軸面の, 表側の	aerial part	地上部
addition line	付加系統, 添加型	aerial root	氣根
additive effect	相加効果	aerial tuber	むかご
additive gene effect	相加的遺伝子効果	aerobic	好気性の
additive genetic variance	相加遺伝分散	aerophyte	氣生植物
adhesive eggs	付着卵	aerotaxis	走気性
adichogamy	雌雄同熟	aestivation = estivation	1. 夏眠(動) 2. 幼葉態(植)
adipose fin	脂鰭(あぶらびれ)	affinity	親和性
adjacent disjunction	隣接分離	African millet	シコクビエ
adjacent distribution	隣接型配置	afterbirth	あと産
adjacent segregation	隣接分離(染)	aftereffect	後作用
adjusted mean	修正平均	aftermath	再生草, 二番草
adjustment	修正, 補正	afterripening	後熟
ADP	アデノシン・2・リン酸	aftertaste	後味(タバコ)
adrenal gland	副腎	agamogamy	無配偶生殖
adult	成体	agar medium (pl. media)	寒天培地
adult fish	成魚	age	齡
adult phase	成年相	age at first egg	初産日(週, 月, 年)齡(禽)
adult resistance	成体抵抗性	age at sexual maturity	性成熟齡
adult wood	成熟材	age correction	年齡補正
advanced generation	後期世代	age correction factor	年齡補正係數
advanced registry	高等登録	age in days	日齡
		age in month	月齡
		age of seedling	苗齡
		age of stand	林齡

aged seed	古種子, 加齡種子	albacore	ビンナガマグ ロ
ageing = aging	1. 加齡 2. 老化(草) 3. 熟成	albinism	白化
agglutination	凝集, 凝集反応	albino	白子
aggregate character	綜合形質	albumen	1. 卵白(畜) 2. 胚乳(植)
aggregate economic breeding value	綜合經濟育種 価(畜)	albumen index	卵白係數
aggregate genotype	綜合遺伝子型	albuminous	有胚乳の
aggressiveness	1. 攻撃性(動) 2. 病原力(糸) 3. 進攻性(植)	alcoholic crop	酒精料作物
agouti	野ネズミ色 (畜)	aleurone grain	糊粉粒
agrochemicals	生長調整物質 (除肥料)	aleurone layer	糊粉層
agroecosystem	農生態系	aleuroplast	アリウロプラ スト, 粉状 体
agroecotype	栽培生態型, 農業生態型	alga (pl. algae)	藻, 海藻
agronomic character (trait)	農業形質	alien chromosome	外来(異種)染 色体
agronomy	農学(狹義)	alien chromosome addition line	外来(異種) 染色体添加 系統
A. I. (artificial insemination) bull	人工授精用種 雄牛	alien chromosome substitution line	外来(異種)染 色体置換系 統
A. I. (artificial insemination) daughter	人工授精娘牛	alkaline plant	アルカリ植物
air-curing	氣干(タバコ)	alkylating agent	アルキル化 剤, アルキ ル化物質
air grafting	よび接ぎ	all-or-none trait	悉無(しつむ) 形質
air layering	空中とりまき 高取り法	allele	対立遺伝子
air miles	直線距離	allelism	対立性
air sac	氣囊(花粉)	allelomorph	対立形質
akaryota	無核生物	allelomorphism	対立性
akinetic chromosome	無動原体染色 体	allelopathy	他感作用
ala	翼弁(マメ科)	allied species	近縁種
Alaskan pollack	スケトウタラ	allochronic isolation	時間的隔離
		allodiploid	異質二倍体
		alogamous	他殖性の
		alogamy	他殖, 他家生殖